

1998 年 1 月 19 日 発行

2024 年 2 月 5 日 改訂

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : シリコングリス
品番 : A1028
会社名 : 白光株式会社
住所 : 大阪市浪速区塩草 2 丁目 4 番 5 号
担当部門 : 営業部
電話番号 : 06-6561-1574
FAX 番号 : 06-6568-0821
メールアドレス : cs@hakko.com
推奨用途 : はんだ吸取器エア−漏れ防止

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : GHS 分類基準に該当しない。
GHS ラベル要素 : GHS 分類基準に該当しない。
分類に該当しない他の危険有害性 : 知見なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物
化学名又は一般名 : シリコングリス
GHS（世界調和システム）によれば危険有害性成分は含まれていない。

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ、影響があれば医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合 : 多量の水で洗い流す。
眼に入った場合 : 数分間眼を水で洗い流す。1〜2 分洗眼してからコンタクトレンズをはずし、さらに数分洗い続ける。
症状があれば、医師の診察を受ける。眼科医が望ましい。
飲み込んだ場合 : 誤飲した時は、医師の診察を受ける。
医師の指示がない限り、嘔吐させない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素（CO2）、粉末消火剤
使ってはならない消火剤 : 特になし
火災時の特有の危険有害性 : 有害燃焼副産物：炭素酸化物 ケイ素酸化物 ホウ素酸化物 ホルムアルデヒド。燃焼生成物への曝露は健康に害を及ぼす場合がある。
特有の消火方法 : 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。安全であれば未損傷物を火災領域から離す。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防処置 : 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を着用する。保護具を使用する。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 個人保護具の推奨事項に従う。
- 環境に対する注意事項 : 環境への放出は必ず避けなければならない。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。広範囲に広まるのを防ぐ(封じ込めまたはオイルバリアなどによる)。汚染された洗浄水を保管し、処分する。流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 不活性な吸収材で吸収させる。適切な吸収剤を使用して、漏洩物を除去すること。本製品を放出、廃棄する際には、各地方自治体および国の規則に従って処理すること。その放出に使用された物質についても同様である。どの規則が適用されるかを確認する必要がある。多量にこぼれた場合、防液堤を築く等の適切な封じ込め手段を講じて、広がらないようにすること。防液堤に使用した資材をポンプで吸い上げることができる場合には、回収した物質を適切な容器内に保管する。本 SDS の項目 13 および 15 において、地方自治体および国の法規制の記載あり。
以下の項目を参照のこと : 7、8、11、12 および 13

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 「8.暴露防止及び保護措置」を参照。
- 安全取扱注意事項 : 漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。
- 接触回避 : 情報無し。
- 衛生対策 : 十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。衛生状態を良好に保つ。作業場所での飲食や、食物の保管をしないこと。喫煙や食事の前には手を洗う。

保管

- 安全な保管条件 : 適切なラベルのついた容器に入れておく。
- 避けるべき保管条件 : 強酸化剤と一緒に保管しない。
- 安全な容器包装材料 : 適さない材質 : 知見なし

8.ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会	:	設定されていない。
ACGIH 勧告値	:	設定されていない。

- 設備対策 : 許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。

保護具

- 呼吸用保護具 : 呼吸器刺激や不快感等がある場合、又はリスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。
- 手の保護具 : 特別な手袋は必要ない。
- 眼、顔面の保護具 : 保護メガネを着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 : 使用後は手をよく洗浄すること。

9.物理的及び科学的性質

物理状態	: 粘性液体
色	: 白色半透明
臭い	: かすかな臭い
融点・凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: >65℃
可燃性	: 非該当
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: データなし
引火点	: >200℃ : セタ密閉式引火点試験
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: 500000 cSt : 25℃
溶解度	: データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 1.1
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10.安定性及び反応性

反応性	: 反応性危険とは分類されない。
化学的安定性	: 通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	: 強い酸化剤と反応することがある。
避けるべき条件	: 知見なし。
混触危険物質	: 酸化剤
危険有害な分解生成物	: ホルムアルデヒド

11.有害性情報

急性毒性（経口）	: 分類できない
急性毒性（経皮）	: 分類できない
急性毒性（吸入：気体）	: 分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	: 分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	: 分類できない
皮膚腐食性／刺激性	: 分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 分類できない
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない

生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
生殖毒性・授乳影響	: 分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: 分類できない
誤えん有害性	: 分類できない

12.環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	: データなし
水生環境有害性 長期（慢性）	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物	: 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条令に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。
汚染容器・包装	: 廃容器は内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する。

14.輸送上の注意

国際規制	
国連番号	: 分類基準に該当しない
品名	: 分類基準に該当しない
国連分類	: 分類基準に該当しない
容器等級	: 分類基準に該当しない
輸送又は輸送手段に関する 特別の安全対策	: 分類基準に該当しない
国内規制	
海上規制情報	: 分類基準に該当しない
航空規制情報	: 分類基準に該当しない
陸上規制情報	: 分類基準に該当しない

15.適用法令

労働安全衛生法	: 第 57 条 表示対象物質：非該当 第 57 条の 2 通知対象物質：非該当 鉛中毒予防規則：非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	: 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当
消防法 : 合成樹脂類, その他のもの, (指定数量 3000 キログラム), 火気厳禁
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 産業廃棄物

16.その他の情報

出典 製造業者の SDS。

本データは現時点で入手できる情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。記載内容は通常の使用状態におけるものであり、危険有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、使用におかれましては、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。

改訂履歴

改訂日	内容
1998 年 1 月 19 日	初版発行。
2010 年 4 月 1 日	組織変更による部署名変更。
2010 年 11 月 1 日	フォーマット変更。
2012 年 6 月 15 日	PRTR 法の表記を変更。
2015 年 11 月 26 日	SDS へ改定。
2023 年 11 月 21 日	フォーマット変更。 2021 年 10 月 20 日公布 化管法政令改正に対応。
2024 年 2 月 5 日	「9.物理的及び科学的性質」データ修正。